

## 「文人の夢・田能村竹田の世界」

主 催：静岡県立美術館・大分市美術館  
協 賛：JR東海  
助 成：財団法人 地域創造  
会 期：平成17年9月30日(金)～11月6日(日)

<33日間>

休 館 日：毎週月曜日（ただし10/10月曜祝日は開館、10/11火曜休館）

会 場：第1～第5展示室

江戸時代、中国・明清の文化を学んだ文人たちは、師や友との交流、旅の実践をとおして、胸中にわきあがる理想の自然を、詩や書画に表現しようとした。屈指の文人として名高い田能村竹田（1777～1835）も、故郷の九州・豊後竹田（大分）から京都への旅を重ね、頼山陽や浦上玉堂らと交遊、旅や交友から心の眼を得て、繊細透明な書画の数々を生み出し、弟子たちを育んだ。

その竹田の弟子である帆足杏雨の家（富春館・大分市）に伝わった作品群は、まさにタイムカプセルで、伝来の確かな作品群として、研究者間ではよく知られている。竹田の代表作（重要文化財26件）や、杏雨・草坪・直入など弟子たちの優品、彼らが学んだ中国絵画、狩野派・大和絵などの日本絵画から構成され、大分市美術館に所蔵されている。

この富春館伝来品を、初めて東日本で公開すべく企画・実施した展覧会である。展示構成は、1. 竹田絵画の輝き 2. 弟子たち・周辺への波及 3. 伝来の中国絵画 4. 伝来の狩野派・大和絵。珠玉の重要文化財26作品をふくむ全64作品により、竹田をめぐる絵画世界を総合的に紹介した。竹田の清らかな書画、美しい理想郷（ユートピア）イメージによって、観覧者の方々から、疲れた心が癒え、安らぎを感じることができた、という感想が多く寄せられた。

なお本展は、静岡・大分両館の所蔵品交換展の試みであり、このあと当館コレクションによる「近世絵画の水脈―狩野派から若冲、大雅へ」展（11/18～12/25）が大分市美術館で開催され、当館所蔵の日本画44作品を出品（具体的な出品作については、後出の「収集活動と保存管理」―「館蔵品の貸出」を参照されたい）、4701人の観覧者を集めた。静岡・大分という離れた地域の人々が、遠地の美術館の所蔵品にふれる場を提供し、近くの館ではなかなか見る機会のない分野の作品をまとめて見る機会を作り出した点で、まさに文化的

インパクトのある事業だったといえるだろう。当館にとって、所蔵品の完全交換展は初の試みであった。

### ■カタログ

27.5×21.0cm 167p.

エッセイ・総論

宗像健一「文人・田能村竹田」

図版と解説

第1章 竹田絵画の輝き

第2章 弟子たち・周辺への波及

第3章 富春館伝来の中国絵画

第4章 富春館伝来の狩野派・大和絵など

エッセイ・各論

野田菜生子「天保三年の夏 曲溪複嶺図制作の背景」

飯田 真「竹田の真景図 旅人と友―「自娛」の風景」

山下善也「竹田らが目にしてきた狩野派作品―永養・常信・永伯―」

作家解説

知っておきたい「日本の文人画」のキーワード 山下善也編

田能村竹田関連略年譜 野田菜生子編

田能村竹田・旅と交流の軌跡 野田菜生子編

田能村竹田と帆足杏雨 ふるさとアルバム

大分市美術館

### ■関連記事

新美術新聞 10月1日号／「文人の夢・田能村竹田の世界 安らぎの理想郷」

静岡新聞 10月22日朝刊／文化欄「田能村竹田の世界展 身近な自然に理想郷」

朝日新聞 10月28日夕刊／全国版文化芸能欄「一展逸点／曲溪複嶺図及題詩 田能村竹田」出品作の紹介記事

『趣味の水墨画』2005年10月号「文人の夢・田能村竹田の世界」

日本経済新聞 11月14日朝刊／「文化往来 地方美術館、所蔵品融通し展覧会を充実」

美術倶楽部『平成18年 美術家名鑑 2006年版』「2005

美術界の動向」全国の美術館等で開催された代表的な美術展のひとつとして記録された

## ■関連事業

10/8土/14:00-15:30

特別講演会「文人竹田」

講師：宗像健一氏（大分市美術館学芸顧問）

80名聴講講堂

10/9日・10月祝、15土・16日/各日10:30~16:00

講師：実技講座「墨と和紙で絵画」

浅見貴子氏（日本画家）実技室

15名参加 各自が体験

10/15土/14:00-15:30 午後2時～

学芸員による作品解説

講師：山下善也（静岡県立美術館主任学芸員）展示室

10/23日/14:00-15:30

学芸員による作品解説

講師：飯田真（静岡県立美術館主任学芸員）展示室

10/29土/14:00-15:30

特別講演会「竹田絵画の魅力」

講師：黒田泰三氏（出光美術館学芸課長）

60名聴講講堂

11/3木祝/14:00-15:30

技法セミナー「墨色にふれる～墨と和紙の出会いから」

講師：小松謙一氏（日本画家・多摩美術大学講師）

実演と話 実技室 40名聴講

## ■出品目録

P.80参照



▲ チラシ表紙